

5. コロンビアの体質 5

天理教コロンビア出張所長
清水 直太郎 Naotaro Shimizu

7) 島嶼地域

昨年 (2020 年) 11 月、コロンビアの島嶼の主要地域であるサンアンドレス島、プロビデンスシア島は想像を絶する光景となった。



サンアンドレス島

イオタと呼ばれる風速 170km とも 250km とも言われるとつものない大型ハリケーンが、16 日コロンビアのリゾート地であるこの両島を

根こそぎ破壊したのである。イバン・ドゥケ大統領は「基幹設備の 99% が壊されてしまった」と語った。復旧にはおそらく相当時間を要するだろう。

* 島嶼地域の詳細

コロンビアの島嶼地域は 2 つの海洋に位置する。一つはカリブ海 (大西洋)、もう一つは太平洋である。

カリブ海には、サンアンドレス島とプロビデンスシア島、そしてサンタカタリーナ島がある。面積はサンアンドレス島が 26km²、プロビデンスシア島が 17km²、サンタカタリーナ島が 1km²。人口はこの 3 つの島で約 8 万人弱 (2015)。人種構成は約 55% が黒人系、30 ~ 40% が混血と白人系である。

島の位置は、コロンビアの最寄りの海岸からは遠く (720km)、一番近い国はニカラグア (230km) である。そのため、後述するが、コロンビアとニカラグアの両国間では領土や排他的水域の問題を常に抱えている。

カリブ海の島々は、気候は熱帯ではあるが、観光地になるぐらいだから、ジメジメとした気候ではないらしい。

* カリブ海地域の影響

カリブ海地域の特徴をほんの少しだけ語らねばならない。この地域は、クリストバル・コロン (コロンブス) が訪れて以来、近世に渡りスペイン、オランダ、イギリスなどのヨーロッパ、その後アメリカがそれぞれ勢力を振って来た。したがって文化 (言語、風習、宗教) は、他のラテンアメリカ諸国と同様もしくはそれ以上の多様性を持っている。

かつてはモンゴロイドの先住民が住み、15 世紀にヨーロッパ人たちが到来し、やがてアフリカの人々が奴隷として連れて来られ、奴隷制廃止後はアジアからの労働者がやってきた。カリブ海地域は、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジアという世界各地の人々とその文化が交錯して形成されてきた地域であるという意味でもぎわめて特色ある地域である。⁽¹⁾

* 歴史

なぜ、この島々が本国コロンビアより遠く離れているにも関わらず、領土になったのか。島嶼地域の中では、この 2 つの島 (サンタカタリーナ島はプロビデンスシア島と橋続き) で 1 つの県となっている。県庁所在地はサンアンドレスである。2 つの島の往来は、飛行機で約 7 分、船で 3 時間である。⁽²⁾

まず、この地域は 1510 年にスペインが統治した。その後オランダやイギリスがバミュエダ島やバルバドス島に到着しプロビデンス

シア島に住み始めた。スペインとイギリスの間には覇権争いもあったが、スペインが勅令をくだし、この島々の権限をボゴタ王立行政機関 (ヌエバ・グラナダ副王領) に与えた。これが 19 世紀初期だった。⁽³⁾ 当時の領土は現在のエクアドル、ベネズエラ、パナマ、コスタリカ、ニカラグアの海岸部を占めていた。

20 世紀に入り、コロンビアとニカラグアの間に正式に条約が締結され (1928 年)、コロンビアの領土として認識されていた。しかし、2012 年 12 月「領海」問題が起こり、国際司法裁判所の判決によってコロンビアの排他的水域はそれまでの 43% を失った。コロンビアはこの判決を受諾しておらず、現在も問題が続いている。⁽⁴⁾

* 経済

カリブ海の島々 (サンアンドレス島とプロビデンスシア島) の主な経済と財源は「観光業」である。400 ~ 500 軒のホテルがあり、コロンビア人なら一度は行ってみたいと言われる観光地である。私自身は訪れたことがないが、コロンビアの友人からは「良い所ですよ、絶対行ったほうがいいよ」と常に勧められるコロンビアのリゾート地である。いわゆる、コロンビア人の自慢の観光地という気がする。さて、冒頭にも書いたが、ハリケーンの通る地域であり、今回の被害は甚大なものである。ハリケーンというのは台風の倍ぐらいの勢力があるようだ。上陸した島や国は大打撃を受けている。2020 年、プロビデンスシア島は大統領の発表通り、施設が使用できなくなった。この両島の観光産業は将来どうなるか危惧されている。

* 文化

言語は公用語のスペイン語だが、その他英語と現地語や色々な言語が混成してきた「クレオール語」が話されている。

宗教についてはプロテスタントが多く、その中でも「パプテスト派」が際立っている。次はカトリックである。また少数派ではあるが、ペンテコステ派、イスラムやエホバの証人も入っている。

* 太平洋にある島々—ゴルゴナ島とマルペロ島について

この両島には現在誰も居住していない。カリブ海の島々と違い、太平洋の島々湿度 90% にもなり降水量も多い。

ゴルゴナ島の面積は 26km² で、マルペロ島は 1.2km² である。ゴルゴナ島は 1860 年から 1984 年まで刑務所が設置されていた。その昔、紀元前 3000 年くらいから先住民が暮らしていた。あのペルーを征服したフランシスコ・ピサロもこの島を訪れたことがあるという。その後、1960 年にアルベルト・ジェラス・カマルゴ大統領が島を国家占有にして、刑務所を建設した。かつて 2 家族が住んでいたが、島を後にした。現在彼らの建物は研究施設の一部として使用されている。⁽⁵⁾

1984 年、当時のベリサリオ・ベタンクール大統領は刑務所を閉鎖、ゴルゴナ島は国立公園としての道を歩むことになった。現在は、国立公園機関に許可を得て訪問することができる。住人はいないが、研究のための宿泊施設がある。⁽⁶⁾

[参照文献及び URL]

- (1) 志柿光浩、「第 8 章カリブ海地域」、国本伊代・中川文雄編『改訂新版ラテンアメリカ研究の招待』、新評論、2005 年、224 頁。
- (2) <https://baquianos.com/blog/providencia-como-llegar>
- (3) <http://regioninsular.com/región-insular-de-colombia/>
- (4) 同上。
- (5) https://es.wikipedia.org/wiki/Isla_Gorgona
- (6) 同上。